

+Affiliated with the International Association
THE Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒194-0211
東京都町田市相原町1857
長谷川 あや子
TEL&Fax:042-771-6962
E-mail: ayako.h3@nifty.com

2025年12月

The Service Club of The YMCA

第366号

東京八王子ワイスメンズクラブ

会長	長谷川 あや子
副会長	久保田 貞視
書記	小口 多津子
会計	稻葉 恵子
直前会長	並木 真
担当主事	西嶋 健太
ブリテン	山本英次 大久保重子

国際会長 エドワード・オン（シンガポール）主題「信念、愛、行動」 スローガン「共に、より強く」
アジア太平洋地域会長 田上 正（熊本むさし） 主題「信念と愛を持って行動しよう！」 スローガン「YMCA、ユースと共に地域社会に貢献しよう」
東日本区理事 山下 真（十勝） 主題「ワイスのらしさ再発見」 スローガン「Change!」
あづさ部部長 山口 直樹（東京武蔵野多摩） 主題「垣根を低くし、活発な活動を」 八王子クラブ会長 長谷川 あや子 主題「若い人の成長を願い、ともに歩む」

2025年12月クリスマス例会プログラム

日時:12月14日(日) 15:00~18:00

会場:高尾の森わくわくヴィレッジ・音楽室、カフェテリア

担当A班:長谷川、稻葉、並木(真)、小口

第1部クリスマス例会 15:00~15:40(音楽室)

司会:小口ワイス 奏楽:永町匡世さん(ピアノ)

開会点鐘 会長 長谷川あや子

前奏 永町匡世さん

讃美歌 103番 まきびとひつじを

聖書朗読 マタイによる福音書2章1-12 小口ワイス

奨励「主イエスの誕生と学者 羊飼い」飯島隆輔牧師

お祈り 飯島隆輔牧師

讃美歌 109番 きよしこの夜

默想

~~~~~

事務報告 会長 長谷川あや子

YMCA報告 西嶋担当主事

閉会点鐘 会長 長谷川あや子

### 第2部 永町さんと阿部さんの楽しいコンサート

15:50~16:40 音楽室

司会:長谷川会長

\*ゲスト・ビジターのご紹介

\*楽しい懇親のゆうべ...永町・阿部姉妹コンサート

ピアノ 永町匡世さん バイオリン 阿部智世さん

ダニー・ボイ、煙が目にしみる、ハバネラ、マンボ他  
みんなで歌おう、 脳トレ・イントロクイズ

\*ハッピーバースデー(メンバーなし) 長谷川会長

\*スマイル(多摩いのちの電話のために) 稲葉ワイス

\*記念撮影 山本ワイス

第3部 楽しい会食 17:00~18:00 カフェテリア(1階)

進行:長谷川会長

乾杯 中里 敦さん

楽しい食事 特製「わくわく御膳」飲み物

### 先月の例会ポイント(11月)

|        |      |      |         |
|--------|------|------|---------|
| 在籍     | 11名  | 切手   | 計 0g    |
| メン     | 8名   |      |         |
| メイキャップ | 3名   |      |         |
| 出席率    | 100% | 現金   | 0円      |
| ネット    | 1名   | スマイル | 21,500円 |
| ゲスト    | 1名   | 累計   | 45,400円 |
| ビジター   | 10名  |      |         |
| ひつじぐも  | 4名   |      |         |

### 今月の聖句(2025年12月)

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。御子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。

(新約聖書 ヨハネによる福音書 3:16-17 聖書協会共同訳)

# 卷頭言

## 宣教師とは何か！

講師：甲府21クラブ 後藤哲夫さま 講話要旨

日時：2025年11月8日 八王子 第一例会

場所：八王子ベテル教会

講師：甲府21クラブ 後藤哲夫様



### 要約

本講演は、元山梨英和学院教員でキリスト教関連の翻訳家である後藤哲夫氏による、「宣教師とは何か」というテーマの講話である。「宣教師」とは、単なるキリスト教の伝道者ではなく、伝道・教育・社会事業を通して地域社会に貢献し、人々の生活や価値観に変革をもたらした人。その根底にキリストによる愛と赦し、他者への実践を重視している。内容は、カナダ合同教会(旧カナダ・メソジスト教会)の日本における宣教活動の歴史から始まる。1873年に禁教令が解かれた日本へ渡った初期の宣教師たちの活動を紹介し、特に伝道、教育、社会事業という3つの柱を中心に、サンビー、マッケンジー、カートメル、ストーンといった男女宣教師たちの具体的な功績が語られた。また、メソジスト教会の創始者ジョン・ウェスレーの思想と活動が、日本の著名なキリスト教社会運動家である賀川豊彦に与えた影響について詳述。ウェス



レーの巡回伝道(サーキット)・教育・社会事業といった活動が、賀川の協同組合運動や貧民救済活動に深く受け継がれたことを、具体的なエピソードを交えて解説している。

### 知識点

#### ジョン・ウェスレー

⑤



1. カナダ合同教会(カナダ・メソジスト教会)の日本宣教  
宣教の始まりと背景  
カナダ合同教会の前身は「カナダ・メソジスト教会」であり、プロテスタントの一教派である。

プロテスタントの海外宣教は、18～19世紀に欧米で起こったリババーレ運動(信仰復興運動)をきっかけに始まったカナダメソジスト教会は、アメリカのメソジスト教会から分離して50年を迎えたことを機に、海外伝道を計画した。

1871年(明治3年)、日本や中国への伝道を決定。

1873年、岩倉使節団が欧米でキリスト教を禁じていることを非難された結果、日本政府が禁教令の高札を撤廃。奇しくもこの年に、カナダからの宣教師が日本へ派遣された。

#### 初期の宣教師とその活動

活動の拠点は、横浜から「築地」居留地から始まり、東京、そして中部地方から北陸地方へと広がった。

第一陣(1873年)G・カックランとD・マクドナルドが来日。

カックラン: イルランド移民出身。ほとんど独学でヘブライ語とギリシャ語を学び牧師となった。

マクドナルド: 医師の免許を取得して来日した。

第二陣: C・S・イビーとG・M・ミーチャムが来日。

イビー: 学生伝道に力を注ぎ、将来の日本を担う若者を育てる方針を掲げた。東京大学の近くに「中央会堂」を建設した。

#### 初期の活動拠点と逸話

中央会堂は、夏目漱石の小説『三四郎』の作中に登場する場所として知られている。

また、野口英世が東京大学医学部に在籍中、この中央会堂の小部屋に寄宿し、指の手術を受けた際に教会の女性会員から手厚い介護を受けたという逸話が『中央会堂五十年史』に記されている。

#### 自給伝道隊

宣教師を多数派遣するための資金不足を補うアイデアとして考案された。

日本の官立や私立の学校で英語を教え、給料を得ながら伝道活動に従事する人々を指す。

この制度により、当時 11 名の宣教師が来日した。J・W サンビー、D・R マッケンジー、R・エンバーソンなどがこ



の自給伝道隊に属していた。

カナダメソジスト教会の本部

本部はカナダのトロントにある。メトロポリタン教会で派遣送別会が開かれ、男子ミッションが組織された。

## 2. 男性宣教師の活動



### サンビー

甲府や東京東部(日暮里、根岸など)で伝道活動を行った。

日暮里に社会事業施設「愛隣団」を設立後に発展し、当時画期的であった「愛隣小学校」や、地域住民を助けるための「廉売所」など多くの施設を運営した。

1873年から50年の宣教の歴史をまとめた本“New Chivalry in Japan”(『日本の新しい騎士道』)を執筆し、その中に当時の貴重な写真が収められている。

途中で肝臓がんを患い、帰国した。

### マッケンジーとP・G・プライス

マッケンジーは金沢で孤児院「金沢育児院」を設立した。

プライスはマッケンジーの後を継いで育児院の院長を務めた。

プライスは金沢にキリスト教書店「福音館」(現在の絵本などで知られる福音館書店の前身)を創設した。

その後、帰国したサンビーの後任として、東京東部の社会事業を引き継いだ。

### バット

戦後、日本の人々のために食料、医療、薬品などら物資を届ける活動に尽力した。

非常に頑強な人物であったが、過労のため 59 歳で亡くなつた。

彼の名を冠した養護施設「バット博士記念ホーム」が町田に存在し、YMCA 関係者が施設長を務めていた。

### ストーン

バットの後を継いだ宣教師。

青函連絡船「洞爺丸」の海難事故(死者 1155 人)に遭遇し、自身の救命具を学生に譲って亡くなつたとされる。

このエピソードに感銘を受けた三浦綾子が、小説『冰点』の作中にその話を取り入れた。

### 3. 女性宣教師の活動と功績

#### 婦人宣教協会

1881 年に設立された、女性だけの宣教団体。

男子ミッションと同様に、伝道、教育、社会事業の 3 本特に教育面で優れた功績を残し、山梨英和学院、静岡英和学院、東洋英和女学院などの設立の他、幼稚園での活動に尽力した。

#### マーサ・J・カートメル

東洋英和女学院を創設した人物。一度体調を崩しカナダへ帰国したが、再来日した。

99 歳まで長生きし、東洋英和に絶大な影響を与えた。

#### ライザ・S・スペッサー(ミセス・ラージ)

男子ミッションが設立した東洋英和学校(後の麻布学園の源流)の教師、ミスター・ラージの妻。

夫が校長室で賊に惨殺された際、自身も指を 2 本失い、額に傷を負う重傷を負った。このため、写真を撮る際は負傷した右手を隠していた(?)。

後に男子ミッションと対立し、責任を取る形で一度帰国するが、禁酒同盟の宣教師として再来日した。

#### その他の女性宣教師

S・A・ウイントミュート(ミセス・コーツ) : 山梨英和の初代校長。

M・J・カニンガム: 静岡英和の初代学長。

アームストロング: 日本に帰化し、「アーム先生」として富山で幼稚園教諭を務め、県民に広く愛された。

グリーンバンク: 山梨英和の中興の祖とされ、卒業生から非常に尊敬された校長。



アニー・アレン: 東京東部の亀戸で社会事業を展開。遊郭があり貧しい人々が氷上で生活していた地域で、無料宿泊所兼学びの場「愛生館」を設立した。

#### 4. ジョン・ウェスレーと賀川豊彦への影響

ジョン・ウェスレーの思想と活動

メソジスト教会の創始者。「メソジスト」という名は、オックスフォード大学時代に彼らの几帳面な生活スタイルを揶揄して「メンド(几帳面)な奴ら」と呼ばれたことに由来する。

#### 活動の3本柱:

- 巡回伝道: 馬に乗ったり、自らの足で歩いたりして各地を巡り伝道した。
- 教育: 教会外での野外説教を通じて教育の重要性を認識し、貧しい子供たちのために無料の学校を設立した。
- 社会事業: 産業革命で生まれたスラム街の貧困者や弱者に目を向け、施設や病院を次々と建設した。

#### 賀川豊彦の人物像と業績

ガバナー、シュバイソーと並び「東洋の聖者」と称されるほど世界的に有名だった人物。

主な業績は、協同組合運動(現在の生協の父)、農業協同組合(農協)の設立、農民運動への尽力など多岐にわたる。

最も重要な側面はキリスト教の伝道者として、多くの人々を信仰に導いたことである。

#### 賀川豊彦の半生と信仰の確立

神戸の裕福な家の父と芸者の母の間に生まれ、家が没落した後は叔父に育てられた。キリスト教の道に進むことで援助を絶たれる。

神戸の神学校(後の明治学院)でマイス宣教師とローガン宣教師に温かく受け入れられた経験が、自身のアイデンティティを確立する上で決定的な出来事となつた。

18歳頃から結核を患い、生死の境をさまよう。奇跡的に

回復した際、「神に生かされた」と感じ、その時に読んだ『ジョン・ウェスレー伝』に深く影響を受けた。

その後『ジョン・ウェスレー伝』原著を賀川に与えたのは、カナダの宣教師であり、後に関西学院大学の学長となるベーツ先生であった。

#### ウェスレーから賀川への精神的継承

ウェスレーの「罪から清められ、それを他者への実践に向ける」という精神は、賀川豊彦に完全に引き継がれた。

ウェスレーがロンドンのスラム街で活動したように、賀川も神戸のスラム街(新川)で貧しい人々と共に生活し、活動した。

賀川の協同組合運動や社会事業は、ウェスレーの思想を日本で具体化したかのようだ。

#### 5. 宣教師の精神性と背景

2025.11.08 八王子ワイメンズクラブ 諸資料

### 〈素朴な神への信頼〉 ⑯

カナダ・メソの信仰〈素朴な神への信頼〉愛唱される子供謡美歌

Jesus lives me this I know for the the Bible tells me so,

主われを愛す 主は強ければ われ弱くとも 恐れはあらじ  
 わが主イエス わが主イエス わが主イエス われを愛す  
 わが君イエスよ われをきよめて よきはたらきを なさしめたまえ  
 わが主イエス わが主イエス わが主イエス われを愛す

#### 宣教師の動機(宣教大命令)

宣教師の活動の根源には、マタイによる福音書の最後にある「あなたがたは行って、すべての国民をわたしの弟子としなさい」というキリストの言葉(宣教大命令)がある。

この言葉を自身の生涯をかけるべき使命と受け止め、海外での伝道活動に従事した。ウクライナのオデーサで27年間活動する船越眞人牧師、加古川バプテスト教会所属もこの言葉に感銘を受けた一人である。

#### アイルランド系メソジストの特徴

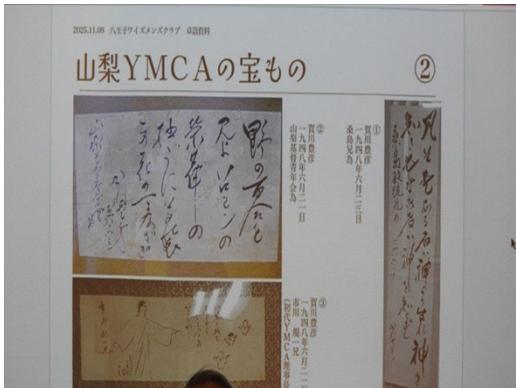
カナダ・メソジストの宣教師にはアイルランド系の人物が多かった(例:マッケンジー、アームストロング、グリーンバンク、ノルマンなど)。

彼らの祖先は、英國の支配下で苦労し、ジャガイモ飢饉などを経てカナダへ移民した歴史を持つ。そのため、ユーモアとウィットに富み、陽気でありながらも律儀で質素な気質を持つとされる。主食がジャガイモであったというエピソードも紹介された。

#### 多様な人格

宣教師の人格は、時代、家庭、教育、経験などによって形成され、千差万別である。

長野で活動したノルマンのように、誰とでも親しく交わる心優しい人柄の者もいれば、バットのように貧困や不正義に対して戦う者もいた。



## 6. 補足事項と質疑応答

### 関西学院との共同経営

講義の最後に重要な補足として、カナダ・メバジスト教会が関西学院の共同経営に関わっていたことが述べられた。

これはアメリカの南メバジスト教会との共同事業であり、経済的援助や宣教師の派遣をほぼ同規模で行った。距離的な問題から議論はあったものの、ベーツ先生やノルマン夫妻(夫は教授、妻は神学部の准教授)など、多くの立派な宣教師が関西学院へ派遣された。

メバジスト系でも、青山学院(アメリカ北メバジスト監督教会)とは異なり、カナダと南メバジストが協力して関西学院を発展させた歴史がある。

### 子供讃美歌「主われを愛す」

「主われを愛す」という単純な歌詞がポイントであり、メバジストの心情をよく表しているとされる。

当時、子供たちの間で非常に流行し、仏教日曜学校で替え歌ができるほど有名になった。

難しい教義よりも「イエス・キリストが私を愛してください」という単純で素朴な信仰の核心を捉えることが重要であると示唆された。

### 質疑応答: 当時の交通手段

当初、大陸横断鉄道はなく、馬車でサンフランシスコに移動し船で24日かかった。

1903年に中央線が甲府まで開通したことで、宣教師の移動が容易になり、甲府での活動が大きく変化した。それ以前は峠を越えて2日がかりで移動していた。

北陸へは東海道線で移動し、そこから北上するルートが使われた。交通手段の発達がキリスト教の伝播と密接に関わっていた。

## 応援団とゲストのみなさん



## 東京YMCA「秋のペタペタ歩き」で 多摩湖めぐり

小口多津子

11月最後の土曜日の29日、東京YMCA会員部主催「第21回ペタペタ歩き」に参加してきました。

毎年、春と秋の2回あります。今回は、村山貯水池を2/3周もする「多摩湖を巡る秋探訪」でした。

17名の参加、西武多摩湖線多摩湖駅で集合、駅の外でミーティング、自己紹介、所属などで初めての方と目が合うと、よろしくと。八王子クラブからは、長谷川さん、久保田さん、中里さん、小口でした。狭山公園に入ると、真っ青な空と紅葉した樹々に迎えられ、折よく村山貯水池上空で消防団の演習も見られ、東京都の大事な水源の一つ、村山貯水池のえん堤上をかぎり歩きました、見事な紅葉の樹木のトンネルをくぐり抜けて、しばしトロになった気分。ずっと、一日中いたいな~という気持ちでした。

このペタペタ歩きシリーズ、いつの頃からか、田中博之さんのクイズ形式が全行程中に実施され、問題の答えを探しながら歩きなので、ぼんやりしていません。小鳥名前、樹々の名、貯水池が東京ドーム何個分?とかの問題がぎっしり。昼食時の答え合わせで、10位まで賞品がでます。可愛い商品でした。



広大な貯水池を周りながら、昔の西武球場のドームの脇を抜けて、やっと昼食の公園の中でひと息つきました。農家の間をくぐり抜けて、豊鹿島神社に到着、都内で現存する最古の神社、室町時代に建てたとのこと。静かに落ち着いた場所でした。歩いた場所は、東大和市になります。

そして、20分ほど歩き、終点のモノレール駅の上北台駅に到着、別に打ち上げもなく、全員の日焼けした笑顔でまた次は4月に、と解散しました。全行程で1万

6000歩、約8キロコースでした。

この歩きのコース決めには、西東京センターのかつてのサポートーの皆さんが、2か月前からZOOM参加で、話し合います。そして、決ると、毎回東京YMCAの会員部の熊沢さんと田中さん、綿引さんの3人で下見をされて、歩くコースを決めて下さいます。参加者のうちワイズは全体の半分ほど、東京YMCAの学生さん、あとは友人とか、チラシで知りましたという方がた、小学生も参加されるほど人気のプログラムです。長い半日を、一緒に秋を感じてこんな素晴らしいプログラムはないと思つております。

東京八王子クラブの昔の、20年ほど前のウエルネスというプログラムを思い出しました。あの頃は本当に楽しい、心がウキウキした時代でした。(写真は、田中博之さん撮影)



## ドイツでの留学生活

ひつじぐも 風間梓沙

こんにちは。ひつじぐもに所属している大学3年生の風間梓沙です。私は現在ドイツに留学しており、並木さんからそこでの生活の様子

や街の様子を紹介してくれないかといふ提案をいただきましたので、ブリテンの一部をお借りして私の留学生活をお話させていただきます。初めにドイツを選択

した理由について説明いたします。私は幼いころから伝記を読むことが好きでした。その中でひと際関心を抱いたのがアンネ・フランクという少女の話でした。彼女の伝記をきっかけにドイツの歴史に興味を持ち、大学ではドイツの歴史について深く学びたいという思いから中央大学ドイツ文学文化専攻に入学いたしました。そして現在のドイツではナチ時代の出来事がどのように扱われているのかを知るためにドイツ留学を決めました。

私が住んでいる街はテュービンゲンというドイツ南部に



位置する小さな街です。自然が多くて住みやすく、街並みは中世の雰囲気が残っています。また、学生の街といわれるほど学生が多く、大学には様々な国からの留学生が通っています。



ます。ほとんどの学生が寮に住んでいるため、よく学生同士で集まってお互いの国の料理をふるまい合ったり、カードゲームやボードゲームをしてドイツ文化に触れてています。休日はよくドイツ国内を旅行します。ドイツにはバスや普通列車を1か月乗り放題できるチケットがあるため、近隣の町に簡単に出かけることができます。最近の旅行で一番感動したところはウルムという街にある教会です。ドイツはキリスト教文化が根付いているため、教会が多く存在します。ウルムの教会は世界で最も高い塔をもつとして知られており、その荘厳さは圧巻でした。このような巨大な建物が何百年前から存在しているとは信じられません。



ドイツは建物や宗教文化、食文化など日本との違いが数多くあり、日々が刺激で溢れています。また他国の留学生と共に学び、共に生活することで「多文化共生」という意味について

でも考えることが多くなりました。残り3か月となりましたが、一つ一つの経験に考えを巡らせ、成長して帰国できればと思います。



## 山梨YMCAチャリティバザーフォローアップ記 長谷川あや子

11月3日、朝から上天気、八王子8時33分発のあずさ5号に乗って甲府へ向かう、恒例の山梨YMCAチャリティバザーに遊びに行きました。

今年は何と第65回だそうです。2021年の秋はコロナ禍の影響もあり、開催自体、一大決心だったようです。

山梨YMCAのバザーは年を追うごとに人気が出て始まり立っています。甲府クラブは雑貨、到来品などのびっくり市。甲府21クラブは、YMCAに集う子ども達と一緒に種まきから始め育てた野菜。葉つきの大根が飛びように売っていました。この種は並木真さん提供の種の数々です。それに長野県安曇野のコシヒカリ(2kg)。昨年は遠慮したのですが、今年は迷わず買ってしまいました。私の大好きな甲斐古餅のある和菓子店、シクラメンやポインセチアのお店がひときわ華やかでした。



甲府やまなみクラブは「やまな  
レグローバルフェスタ」など  
で活躍されていますが、タ  
イコーヒーの販売など国際  
色豊かでした。YMCAのユ  
ースは色彩豊かなタイの小  
物を販売。富士五湖クラブはおも

ちや釣り。子ども達が目を輝かせて挑戦していました。

飲食ブースは甲府21クラブのメネットさんたち総出で大活躍でした。カレー、焼きそば、焼き芋のメニューですが、テントのレストランは入れ替わり立ち代わりのお客さまでいっぱいでした。カレー、美味しかったです！バザーのお客さまは主婦層が多いのですが、子ども達は勿論、高校生が多くて驚きました。YMCAのバザーの特色でしょう。

バザーの収益金は障がい者支援、高齢者介護、地域貢献、国際協力事業など、YMCAの実施しているチャリティ事業運営に役立てられます。バザーの準備から終了後の整理まで携わってこられた皆さん、本当に疲れさまでした。私はお店を回りながら、各クラブのメンバー、メネットの皆さんとお話しできとても楽しかったです。



## 伊東クラブの創立50周年記念例 会に参加して

久保田貞視

11月15日(土)15時、ホテルサンハトヤ伊東で開催された伊東クラブの創立50周年記念例会に長谷川あや子、ワイズと並木



真ワイズと共に参加しました。

当八王子クラブの昨年10月の設立30周年記念例会に伊東クラブワイズの熱心な誘いもあり部を超えて参加した次第で、他に多くのクラブに呼び掛けられて今回は155名の多数の出席者となりました。

開会は予定より30分遅れましたが、開会点鐘・開会の言葉で始まり、伊東市少年少女合唱団の合唱、伊東クラブは同合唱団を継続的に支援し、助成金の授与がありました。続いて、会長挨拶、来賓祝辞として山下理事、勝俣富士山部部長が壇上に立ち、静岡YMCA小林理事長の挨拶が続き、これまでに伊東市青少年キャンプ場諸施設の建設を続け、他にも記念樹・記念碑建立やなど地域貢献をしてきたことなどが伝えられました。メモリアルアワーでは過去10年で逝去されたワイズ5人の追悼を報告。

今回の50周年記念事業としては北海道・北見クラブとのDBCの締結を発表しました。

また、チャーターメンバー表彰では50年継続会員の二人の会員に記念品が手交されました。

第2部の祝賀会は会場を替えて、歓迎の言葉に始まり、田中元アジア太平洋地域会長、鈴木次期東日本区理事、松永熱海クラブ会長、DBCの彦根シャークラブ金沢会長、京都プリンスクラブ今西会長、北見クラブ二本松会長、伊東クラブOBの堀口氏の祝辞があり、食前の感謝は東京武蔵野クラブの山口あずさ部部長、長田下田クラブ会長による乾杯の音頭で祝賀会が始まりました。祝賀会はスタイルパンオーケストラの演奏を聴きながら飲みながら食べながらの会で、最後にクラブ・ビジター紹介で稻葉実行委員長の閉会の謝辞となりました。その間、京都プリンスクラブの岡西ワイズにDBC候補をお願いしていた所、京都メイプルクラブを紹

介していただき、また、真ワイスが伊東クラブとDBCで台湾の高雄ポートクラブとIBCでもある彦根シャトクラブの皆さんを連れてこられたので一緒に写真を撮りました。DBCについてはクラブ例会で検討しましょう。会は人数が多く騒然とした中で閉会となりました。

### 今月の聖句に寄せて(2025年12月)

昨日も今日も、あそこの戦場で、こちらの事故で、失われた命の、夥しい数が伝えられています。戦争や大きな事故・災害で、人間一人一人はどうすれば、顔のない数字に置き換えられてしまい、途方もない痛みや悲しみから遠ざけられています。これらの数字の中から人間の顔を想いながら、声を聴き分けるのがとても難しいからです。しかし、そうではあっても、その全ての数字の中に、一人一人の顔があり、語らう声があつたことを想起することを私たちは求められています。それでなければ、戦争を、事故や災害を、私たち自身の力をもって、遠ざける力は生まれてこないからです。

聖書の中でイエス・キリストは、いつも他の誰とも見違えようのない顔と声を持つ一人一人と向き合い、救いの手を差し述べられています。百匹の羊の内、九十九匹の羊をおいても、見失った一匹を見つけ出すまでどこまでも探し歩くのです。

人間の悲惨と罪とをない、一人の人間として歩み、十字架にかかる悲惨な死をとげたイエス、このイエスこそが、世を救うために遣わされた神の独り子キリストであった、と信じるのがキリスト教の信仰と言えます。根底には「一人一人」の人間に向き合うイエスの姿があります。

「一」に「止」まる、それが「正」しい、などと漢字を読み解く向きがありますが、この「一」こそが、原点であり、また、行きつく先でもあります。

クリスマス、神がお与えくださった独り子、イエス・キリストの降誕を共に喜び、お祝いいたしましょう。

並木信一



## 東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

- 10月25日、横浜YMCAと共に「J.T.スワift主事&ミラー主事墓前礼拝」を横浜外国人墓地で行い、両YMCAの会員、職員OB、職員など19名が参加した。墓前礼拝の後は、懇親の時を持った。
- 11月4日～6日、東京YMCAがホストし、「第22回ソウル・台北・東京YMCA指導者協議会(STT)」が「Our Responsibility for the Future - To Leave No One Behind」をテーマにアルカディア市ヶ谷を会場に開催された。3都市YMCAの役員、会員、職員など54名が参加した。基調講演は、社会福祉法人賛育会の大江浩氏に「賛育会“赤ちゃんのいのちを守るプロジェクト”～すべてのいのちが守られるために～」と題してお話し頂いた。その他に、各YMCAの活動報告、都内観光等を通して、相互の学びと交流が行われた。
- 11月13日、「YMCA・YWCA合同祈祷週礼拝」が在日本韓国YMCAにて開催された。東京YWCA、在日本韓国YMCA、東京YMCAの共催で開催され、会員、職員など44名が参加した。金聖泰(キムソンテ)牧師(在日大韓基督教会 東京教会副牧師)に「回復する家の物語」と題して奨励を頂いた。第2部では交流の時を持った。
- 11月15日、「国際協力一斉街頭募金」を新宿駅周辺で実施した。会員、ユースボランティア、園児、学生、メンバー、職員など約110名が街頭に立ち、バングラデシュとウクライナへの支援を呼びかけ、200,771円が寄せられた。
- 11月17日、「2025年度賛助会年会・アドバイザーミーティング」がアルカディア市ヶ谷にて開催され、賛助会員、アドバイザー、役員、職員など計52名が出席した。氏家純一賛助会長(氏家経済研究所代表取締役)の挨拶で開会し、星野總主事から東京YMCAの活動報告がなされた。続いて永年継続賛助会員9法人の表彰と新入会員1社の紹介があった。その後、村井純氏(慶應義塾大学特別特区特任教授・東京YMCAアドバイザー)より、「インターネット文明」のテーマで講演があった。
6. 今後の主な行事予定  
・「早天祈祷会」12月1日(山手センター/オンライン)  
・奨励:山北宣久氏(日本基督教団田園調布教会牧師)

## YMCA 便り続

・「職員クリスマス会」12月16日 会場:日本基督教団  
靈南坂教会

説教:上林順一郎牧師

奏楽:飯靖子氏(東京YMCA理事)

・「ソシアルフォーラム2025」1月31日(山手センター/  
オンライン)

7. 海外来訪者

・11月16日~20日 フロストバレーYMCA Riel  
Peerbooms CEO・Vicky Eddings 副総主事

8. 関連団体の動き

・台北YMCA80周年記念式典 11月22日 会場:台北YMCA

## わくわくビレッジ便り 館長 西崎健太

木々の葉がひとつひとつ色づき、冬の足音が近づいてまいりました。高尾の森わくわくビレッジでは、晩秋の雨にも負けず、たくさんの笑顔とあたたかな交流に包まれた一か月となりました。

まず、11月9日には恒例の「わくわくフェスティバル」を開催いたしました。今年で21回目を迎えるが、長い歴史の中で初めての雨天での実施となりました。それでも多くの来場者の皆さんに足を運んでいただき、会場はにぎやかな雰囲気に包まれました。雨の中でも、ほとんどの出店が通常通り開店し、子どもたちの笑顔や地域の方々の交流があふれる一日となりました。皆さまの温かいご協力に、心より感謝申し上げます。

また、10月18日から11月24までの間、多摩美術大学によるイベント「ポエース」を開催いたしました。期間中の土日に、延べ100名の子どもたちを招き、自然の中での創作活動を行いました。木の枝や葉、木の実などの自然物を使って動物をかたどるこのプログラムは、「自然物でつくり、やがて森へ戻る」という発想に基づいています。時間とともに朽ちていくその過程までも作品の一部とらえる考え方で、子どもたちも自然と命のつながりを感じていたようです。

さらに、11月には北米フロストバレーYMCAのCEO、COOが来訪され、東京YMCAの管理職会議において「フロストバレーYMCAの取り組み」についてのご講演をいただきました。地域社会との新たなパートナーシップの築き方や、多様性を尊重した運営のあり方など、わくわくビレッジにとって多くの学びを得る貴重な機会となりました。

季節はいよいよ冬本番。森は静けさを増し、澄んだ空気が気持ちのよい季節です。これからも自然と人とが寄り添う場所として、皆さんに愛されるわくわくビレッジであり続けられるよう、スタッフ一同努めてまいります。どうぞお健やかに年瀬をお迎えください。



ポエースの作品です。

(左手前:ウン、手前右:マンドリル、奥:ウマ)

## 今月のトピックス

並木真夫妻 八王子市ラン 3:21:48にて完走



## ひつじぐも便り

ひつじぐも 1年 黒澤絢

こんにちは。中央大学法学部1年、ひつじぐものワイズ班に所属している黒澤絢です。師走に入り、冬の訪れを感じる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

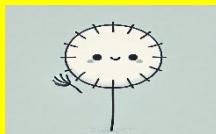
11月は授業によっては中間テストがある時期であるため、他の月に比べ、やや学内で忙しそうな生徒が多いように見受けられます。私は第二外国語で中国語を履修しているのですが、発音に苦戦していました。高校では書道部に所属していたこともあり筆記は好きなので進んで勉強しています。

今回はひつじぐもの11月の活動についてご報告させていただきたく思います。テスト期間と重なっていることもあり、活動の数自体は多くありませんでしたが、一つ一つの活動に楽しみながら参加をしている学生がみられました。

11月2日には、【手をつなごうこどもまつり】として、児童館の遊びコーナーのブースのお手伝いをしました。遊びやルールの説明などを通して、こどもたちと触れ合うことができ、非常に楽しく活動をすることができました。

8日にはワイズ11月例会に参加しました。この例会をもって、班長が3年生の石原島さんから2年生の霞さんに引き継がれました。22日には八王子の生活実習所にて毎年開催されている【わたぼうし祭】に運営のお手伝いという形で参加させていただきました。27日にはオンラインでサークル全体の定例会を行いました。新体制になって初めての定例会となりましたが、新幹部を中心とし、充実した定例会となりました。また、30日には中央大学の後楽園キャンパスの周辺でゴミ拾いをしました。参加者同士で会話しながら楽しみつつ活動できました。一人で街のゴミ拾いを行うことはないので、良い経験をさせていただいている。ゴミ拾い活動を通して、私自身もどんなに小さなごみでも落とさないように気を配るようになりました。落とす人がいるから、拾う人がいる。町を美しく保つためにも、ゴミは落とさないようにしよう。当たり前のことですが、ゴミ拾い活動をすることで、改めてそう思いました。

ここまで、先月の活動を振り返ってまいりました。活動日数こそ多くはありませんが、参加者は楽しみつつボランティア活動に取り組めています。これからも精一杯活動に取り組んでいきたいと思います。



## 新旧委員長交代報告書

前委員長 石原島伶名さん



こんにちは。中央大学ひつじぐもの石原島伶名と申します。この度、ひつじぐも、ワイズ係の引き継ぎがありました。私はもともと副委員長とワイズの係の班長をさせていただいていたのですが、今月から交代ということで、今回は次の委員長と副委員長が来ているので、ご紹介をさせていただければと思います。委員長の霞さんがワイズ係の班長も務めるということですので、あわせてご挨拶させていただきたいなと思っております。

次期委員長 霞 ひかりさん



みなさんこんにちは。はじめまして。中央大学2年の霞ひかると申します。今回は貴重なお話を伺えて、とても嬉しく思っています。11月から、私がひつじぐもの委員長とワイズの班長を務めさせていただくことになりました。まだ皆さんとは十分に打ち解けられていませんが、私のことも知っていただけたら嬉しいです。

ひつじぐもとしても、ワイズメンズクラブの皆様と、これからさらに交流を深めていければと思っています。

これから一年間、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 11月クラブの第一例会報告 代・長谷川

日時:11月8日(土)13:00~15:00

会場:日本キリスト教団八王子ベテル教会

会費:ビジター、メネット1,000円(メバは会費に含まれる)

出席:稻葉、並木真、長谷川、花輪、久保田メネ、大久

保、並木信一、西嶋、山本

ゲスト:千原 創(八王子ベテル教会牧師)

ビジター:後藤哲夫=卓話者、飯田剛、野々垣和宏、  
野々垣健五、松村禎夫、山本俊一(以上甲府21)

佐藤茂美(東京)、為我井輝忠(多摩スマイル)、本川悦子(西)、小原史奈子(たんぽぽ)

中大ひつじも:石原島伶奈、霞ひかる、櫻井美佳子、程 大龍 以上24名

◎卓話:「日本での百年—カナダ・メバジスト教会の歩み」後藤哲夫氏(甲府21クラブ)元山梨英和中学・高等学校英語科教諭

卓話資料「はじめに 自己紹介・なぜこの書物を翻訳するに至ったか」「宣教師とは何か」

◎中大ひつじも役員交代挨拶…石原島伶奈さん、霞ひかるさん

◎報告

・10月25~26日(土・日) 長野クラブ15周年記念例会出席—長谷川

・11月3日(月) 山梨YMCAバザー訪問—長谷川

・11月15日(土) 伊東クラブ50周年記念例会出席—久保田、並木真、長谷川

## ・11月22日(土) 第二例会報告 小口

日時:11月22日(土)18:00~19:40 北野事務所小会議室

出席者:(A)長谷川、小口、(B)花輪、望月、久保田、久保田佐和子 6名

### <報告事項>

・11/8(土)13:00~15:00 11月第一例会。八王子ベテル教会(出席者28名)

卓話「日本での百年 カナダ・メバジスト教会での歩み」後藤哲夫ワイス(甲府21)

出席:メバ(稻葉、並木(真)、長谷川、花輪、久保田メネ、大久保、並木信一、西嶋、山本)

ゲスト:千原創牧師(八王子ベテル教会牧師)

ビジター:後藤哲夫、飯田剛、野々垣和宏、野々垣健五、松村禎夫、山本俊一(以上甲府21)、佐藤茂美(東京)、為我井輝忠(多摩スマイル)、本川悦子(西)、小原史奈子(東京たんぽぽ)

ひつじも:石原島伶奈、霞ひかる、櫻井美佳子、程大龍 以上出席者24名。

スマイル・21500円を八王子ベテル教会へ献金

・11/15(土)伊東クラブ50周年記念例会・出席者:長谷川、久保田、並木真

### <これから予定と協議事項>

#### 12月クリスマス例会

・12/14(日)pm3:00~6:00 高尾の森わくわくビレッジ音楽室

集合時間:2:00(メバ全員)バスの時刻などによ

り前後。場所:3階音楽室I

I部(3:00~3:40)…(奨励)飯島隆輔牧師「主イエスの誕生と学者、羊飼い、

讃美歌103、109番(伴奏永町)、お祈り(牧師)

2部…(4:00~4:50)永町さん、阿部さん姉妹コンビによる楽しいコンサート

永町匡世(ピアノ)ジャズ、阿部智世(バイオリン)クラシック みんなで歌おう(歌詞を用意)、永町さんによる、音楽クイズ。

・ハッピーバースディ(会長)

・スマイル…例年どおり、「多摩いのちの電話へ」寄付。

集計報告/稻葉

・写真撮影(山本)

3部…乾杯、特別御膳会食

会費(メバ2500円、ゲスト、メネット、ビジター3,500円、学生500円)

#### 協議内容は:

##### \*来年3月の街頭募金のこと

・チャリティーコンサートの前の週(土曜日)に行う、JR八王子駅での街頭募金の支援目的をどうするか。これまで、地雷廃絶と重ねて、東京YMCAの募金主旨に沿って、東日本大震災被災地支援、能登半島災害復興支援、ウクライナからの避難者支援、等を募金活動の目的としてきた。

今は、東京YMCAの募金活動の主旨が示されていないため、最初の頃に戻って、ちらしのとおりの「対人地雷・クラスター爆弾廃絶」のみにするのか、次回の1月例会で再度、話し合いを持つ。何かアイディアを、お寄せ下さい。

##### \*3月チャリティーコンサート

・本日、1人につき、チラシ20枚、チケット10枚が配布された。ポスターの配布は12月第二例会。

・コンサート当日の役割は、花輪さんから後日に説明。

##### \*次期の2026-2027年度八王子クラブ役員のこと。

・会長に久保田貞視さんを打診中。

次年度のあずさ部長は、大和田ワイス(松本クラブ)

##### \*久保田佐和子さんからのご提案事項の了承

・昨年から続いている、「北野子ども食堂」への今年も支援を続けられなかいか、佐和子さんからの説明がありまし

た。(昨年は、11月スマイル 12,500円を寄付)

これまでの経過は、3月のコンサート前には、食堂にチラシを貼って、置いて頂いた。

また久保田佐和子さん個人として、直接に野菜、食料品、衣類など折りを見て届けておられた。

提案として、今年の支援の形として、クリスマスということでこの12月には、何か、メンバーでそれぞれが自宅にあるものを持ち寄って、子ども用品など届けられないだろうか。(本、学用品、など)というご説明。この提案を受けて、12月14日クリスマス例会の折に、各自が差し上げられる物品を持ち寄り、寄付することになりました。

以上

## 12月ご誕生されたメンバー

該当者は無し

## 12月クリスマス例会

### 奨励者

#### 飯島隆輔牧師 プロフィール

1942年中国天津市生まれ。18歳まで水戸市の郊外で生活。両親は水戸教員。高校2年の時に受洗。立教大学文学部キリスト教学科卒業。在学中は学生YMCAの活動に参加。

東京YMCAに奉職し、武藏野、山手、沖縄、英語学校などで青少年活動に従事。埼玉YMCA、仙台YMC Aで総主事。退職後、(社福)いのちのでんわ、(特養)深川愛の園の勤務の後、早稲田教会伝道師・副牧師を経て城西教会牧師、同付属幼稚園園長。2024年3月引退。日本キリスト教団引退牧師。

1969年武藏野クラブ(南東部)に入会。以降、山手(3回)、沖縄那覇、埼玉、仙台クラブに所属。

2006年あづさ部長。山手クラブの廃部とともに退会。ワイス歴50年。

妻 愛子 愛犬ロビン(アメリカンコッカ 7歳)。

世田谷区在住。



## 11月の誕生記念撮影

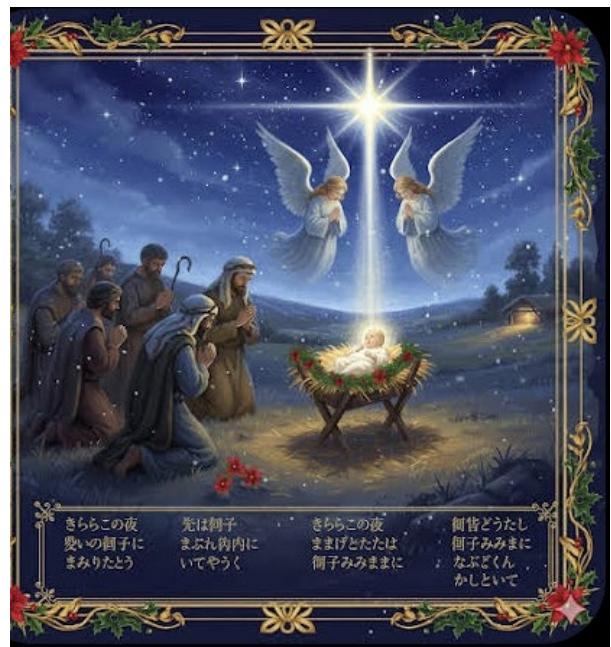


花輪メネット、ひつじぐも震さん、甲府21山本俊一さん、

9月の大久保メン、山本メン

## ♪ きよしこの夜 ♪

きよしこの夜 星は光 救いの御子は まぶねの中に  
ねむりたもう いとやすく  
きよしこの夜 御(み)告げげうけし まきびとた  
ちは 御子(みこ)のみまえに ぬかずきぬ かし  
こみて  
きよしこの夜 御子の笑みに めぐみのみ代の あ  
したの光 かがやけり ほがらかに



きららこの夜  
聖いの御子に  
まみりたとう

光は御子  
まぶれ肉内に  
いてやうく

きららこの夜  
まみげとたは  
御子みままで

御皆どうたし  
御子みみまに  
なぶとくん  
かじとて